

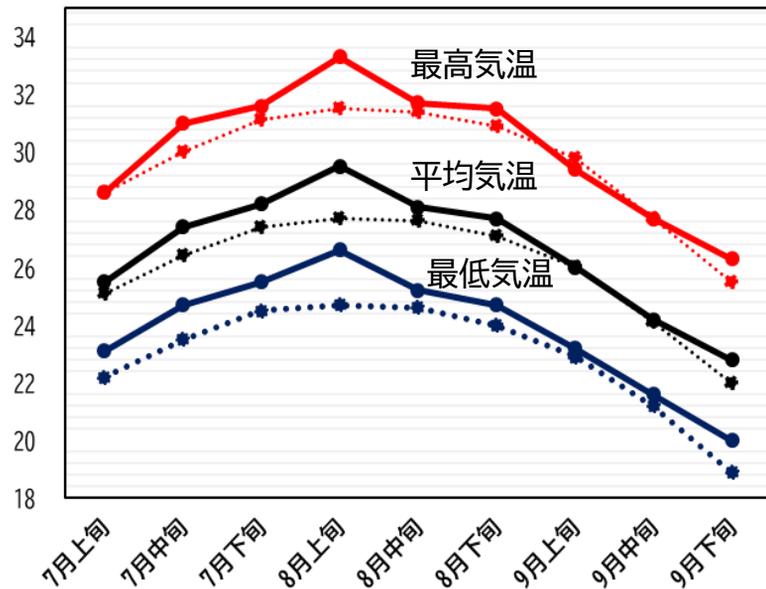
施設園芸における高温対策について

平均気温の上昇と急激な気温変動が昨今の気象の特徴となっています。こうした気象経過により施設園芸の場面では夏期の高温防止対策が不可欠となっています。今後は、従来と同様に栽培しても、高温による影響をうける場合が予測されますので、被害を未然に防ぐため対策を実施しましょう。

1. 三重県（津）の夏の気温について

ここ5年間の8月上旬の平均気温は、過去30年と比べて1.8℃上昇しています。

時期	平均気温 (2016~2020)	平均気温 (過去30年)	比較
7月上旬	25.5	25.1	+0.4
7月中旬	27.4	26.4	+1.0
7月下旬	28.2	27.4	+0.8
8月上旬	29.5	27.7	+1.8
8月中旬	28.1	27.6	+0.5
8月下旬	27.7	27.1	+0.6
9月上旬	26.0	26.0	0
9月中旬	24.2	24.1	+0.1
9月下旬	22.8	22.0	+0.8



2. 高温による影響と栽培管理の注意点

○トマト（抑制栽培）

トマトの抑制栽培は、7月から8月頃の育苗時期、8月から9月上中旬頃の定植時期に、高温による草勢低下や花粉粘性の低下による着果結実不良、直射日光による果実の裂果など品質低下が生じやすいです。

○イチゴ（促成栽培）

イチゴの促成栽培は、7月から8月にかけて、親株から発生したランナー採苗、ランナー切り離し、ポット育苗管理の時期です。

採苗時期は、高温によるランナー焼けが生じやすく、ランナー切り離し直後は苗が萎れやすいです。お盆明けからは、花芽分化の準備に入るため、品種によっては高温が続くと分化の乱れ等分化遅れにつながります。

3. トマト、イチゴの生育不良を抑えるための遮光・昇温抑制対策

トマトの抑制裁培、イチゴの促成栽培の夏季高温期の栽培管理では、日射の透過量を調節した昇温抑制対策で生育不良を抑制しましょう。

ハウス外側や内側に覆う遮熱・昇温防止資材（クールホワイト、メガクール、LSスクリーン、ワリフ明涼など）、吹き付け遮光塗料（レディソル、クールコートなど）があり、遮光率は様々ですので、使う時期や用途に応じて使い分けましょう。

4. 高温対策の取組事例



トマト
内張パイプを利用した遮光



トマト
横張りによる遮光



イチゴ（育苗）
被覆資材の外張りによる遮光



イチゴ（育苗）
被覆資材のうち張りによる遮光



イチゴ（育苗）
遮光が不要な時は被覆資材を束ねて管理



作成：三重県

令和3年4月